「おかげを知る道～縁起をかつぐとは?」

## ●縁起かつぎにうつつをぬかす

多くの人が、縁起をかつぎます。
「北枕は、縁起が悪い方向の寝方」とか、「仏滅は縁起が悪いから祝儀をやめる」とか、「友引は友を引っ張るから葬式をしない」などというそうです。
さて、それでは、「縁起をかつぐ」という言葉を辞書で調べてみます。
「(御幣(ごへい)を担ぐことから)縁起を気にする。迷信にとらわれる」
とあります。
つぎに、「御幣」を調べると、「紙または布を細長く切り、木や竹でつくった幣に挟んだもの。神に仕え、また、神主がおはらいをするときに使う」とあり、そこから、「御幣担ぎ=縁起や迷信を極度に気にすること」ともあります。
それでは、「縁起」を調べてみましょう。
「縁起」は、仏教で使われる「因縁、因(直接原因)と縁(間接条件)によって、ものごとは生起、生まれ起こる」という意味が本来のものです。ところが、それとは全く違う意味として、「物事の吉凶の兆候。きざし。前兆」とあります。
つまり、いつの間にか、「縁起」という言葉が、仏教の意味とは全く違う、そして、逆の意味になって使われています。

## ●「鬼は外、福は内」

2月になると、今ではコンビニエンスストアで大々的に、「煎り大豆」が鬼のお面と共に販売されて、国民的行事として、「豆まき」が広まっています。(私は、個人的には、「煎り大豆」が好物なので、一年中、販売してほしいとは思っています。さりながら、最近、鬼打ち豆ともいわず、福豆という言い方があることを知りました。)
さらにまた、戦後、特定の仏教寺院でも、有名力士や著名人を呼んで「豆まき」が行われていますから、多くの人は、仏教の教えが「豆まき」の起源なのかと思っているかも知れませんね。
ある幼児が、母親に、「鬼は外、福は内って言うけど、外に行った鬼さんが、隣の家に入ったらどうするの?」と尋ねたそうです。
すると、
「隣の家のことは考えなくていいの」
と答えたとか!　噫。
豆まきの「まめ」は、「魔を滅する」という言葉の語呂合わせだとも言われるそうです。
素朴な私たちの気持ちが作り出した宗教行事でしょう。
しかし、仏教の目覚めの教え、お念仏とは如来さまからの呼び声であるという浄土真宗の教えに出遇い、自分の姿に気づかされると、今まで見えていなかった自分が見えてきます。
縁起をかついでまで、何でも思い通りにしたいという、その自分中心の心、自分さえよければ、人はどうでもいいという、私の魔の心が見えてくる、知れてくるのが仏教です。

## ●思い通りにならぬこと

さて、私たちは、「思い通りになること」だけが素晴らしくて、価値があることで、それだけを手に入れることが、人生の幸せであると、決めていたり、あるいは、そう教えられてきたのかも知れません。
親鸞聖人のお念仏の教えを深く生きて、多くの本を書いて、仏教の言葉を聞いたことがない人にも、大変深い感銘を与えた、東井義雄(1912～1991)ご住職のお話しです。
ある念仏者のお嬢さんが、大学受験で失敗した時のことです。
やさしく、あたかかく育てられたためか、ショックでご飯も食べられない様子でした。そんな娘さんをお父さんは自分の部屋に呼びました。
昔のお話しですから、彼女は、お父さんの前に正座をしましたが、顔をあげることもできませんでした。
そんな彼女に対してかけた、お父さんの言葉は、
「おめでとう」
でした。
あまりにも思いがけない言葉に娘さんが思わず顔をあげると、
「おめでとう、今回いくら、お金を積んでも、いくら望んでも得られない尊い勉強をさせていただけたね。
お父さんはね、今まで失敗した時に、これはいま自分が考えなければならないとても大切なことを、仏さまが教えてくださっていると違いないと考え、この失敗のおかげさまで、と言えるくらい失敗を大切にしてきた。
実際、自分が失敗するたび、いくらお金を積んでも、いくら望んでも得られない大切なことを気づかせていただいた。
だから、この失敗を生涯大切にするんですよ。それと同時に、自分が有頂天になった時にも、どこかに涙を流し悲しんでいる人がいるということを考える人になっておくれよ」
と言われたそうです。
私たちは人生の出来事を自分の「思い通りになること」だけで考えようとしますが、仏さまは、「思い通りにならないこと」に出遇う人生を深く受けとめる生き方を教えてくれるものかと教えられました。
(この話は、かなり前、三重県の随願寺さまの寺報で読んだものです)

合掌
万行寺第十八世住職　釋靜芳(本多 靜芳)

※ご縁のあったあなた!　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様·御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様·御手紙』を学びにいらっしゃいませんか?　お待ちしてます(会費はいずれも資料·茶菓代として千円です)。
「ナムの会」は一月と十二月は休会します。